

令和5年度第3回富山県手話施策推進協議会の主な意見

日時：令和6年2月27日（火）午後3時～午後4時30分

場所：富山県庁4階大会議室

議題：（1）第5次富山県障害者計画及び富山県第7期障害福祉計画（第3期障害児福祉計画）の計画案における手話の普及等に関する施策について
（2）その他（災害発生時における対応について）

委員からの主な意見

（1）手話通訳者について

- ・ 手話は言語であること、手話通訳者の専門性、養成の大変さを市町村にも理解いただき、手話通訳者の報酬を全国平均まで増やすように働きかけていただきたい。
- ・ 手話通訳者のやりがいや社会に広がっていけば目指す人が増えるのではないかと思う。

（2）難聴児支援について

- ・ 会議メンバーとして参加する当事者も支援の対象という考え方もあるが、会議に参加するなどそうした活動に参加することを通じて保護者や周りの人たちが難聴についてお互いに理解し、積極的に生きていくことが大切だと思う。

（3）災害発生時における対応について

- ・ 聞こえない人は状況把握が難しい。手話通訳者や手話奉仕員だけでなく、近所の人にもどこに聞こえない方がいるということを知っていただくことが大事だと思う。
- ・ 身近な町内会等小地域の単位での防災の取り組みは非常に大事。
- ・ 聴覚障害者協会の会員は連絡ツールを活用して安否確認ができるが、会員でない方は難しい。どのように繋がっていくかという点も大事ではないかと思う。
- ・ 避難しやすい避難所を作ることが大切。
- ・ 避難所での情報支援が重要であり、ニュースでも手話や字幕を付けることが課題ではないかと思う。
- ・ 聴覚障害に限らず、避難が困難な「災害弱者」も同様に様々な課題があると感じている。